

# 第三者意見

立教大学 高岡美佳教授に、ニチレイグループCSRレポート2018を読んでいただき、ご意見をいただきました。

## ■ ニチレイグループ「CSRレポート2018」に対する第三者意見

### <評価できること>

本レポートは、『くらしを見つめ、人々に心の満足を提供する』をグループミッションとするニチレイグループの社会的責任活動をESG(Environment:環境、Social:社会、Governance:ガバナンス)の軸に沿って報告している優れたレポートです。企業が社会的責任として、地球環境に配慮し、持続可能な社会の構築に貢献しなくてはならないことは現代では当然のことですが、コーポレートガバナンスの充実に努めて事業の継続性を保つとともに企業価値を向上させることも社会的責任の重要な要素となります。ニチレイグループでは、10名の取締役のうち社外取締役を3名選任するなど透明性の高いガバナンス体制を敷いているほか、グローバル企業体としてのコンプライアンスの強化を目的として国内外統一の行動規範を定めています。日本企業のガバナンスは未熟だと言われることが多いですが、ニチレイグループにはそれは当てはまらないでしょう。この点をふまえて、まず社会的責任意識の高さを評価したいと思います。

今回のレポートで最も評価したいのは、2017年4月に改定したCSR基本方針「ニチレイの約束」全8項目のうち、「安全な商品とサービスの提供」と「持続可能なサプライチェーンの構築」の2項目をグループが優先的に取り組む重要事項として明確に位置付けた点です。重要性へのフォーカスは、グループのビジョンと社会からの期待、そしてそれらとCSRとの関連付けが明確になっていなければいけないことです。トップメッセージにあるように、安全な商品とサービスの提供はニチレイグループの最も基本的かつ重要な提供価値であり、その実現には持続可能なサプライチェーンが必要となります。今回、CSRとして優先的に取り組む事項を特定したことで、ニチレイグループの成長とCSRの推進が方向性において一つに重なり、経営そのものがCSR経営へと深化したことを評価したいと思います。

もう一点特筆すべきは、WEBに掲載されている「環境・人財データ集」の内容が拡充されたことです。昨年度までは、採用者数や育児休業取得者数などの人財に関するデータについて3ヶ年の推移が掲載されていましたが、今年度より5ヶ年分のデータが公開されました。ニチレイグループの情報公開がより一層進んだことを高く評価します。

### <要望したいこと>

この3年間でニチレイグループのCSRは大きく前進した印象を受けます。次年度は、8つのCSR課題に沿った各取り組みについて、その目的や内容、指標(KPI)、目標値、達成度などを一覧で示したアクションプランの掲載を検討してはいかがでしょうか。「環境・人財データ集」を見ると、女性役職者比率などは順調に上昇しているようですし、目標値を定めても支障はないはずです。PDCAサイクルを導入し、ニチレイグループのCSR活動を継続的に改善する体制が整うことを期待します。



立教大学  
経営学部 教授  
**高岡 美佳** 氏

## 第三者意見を受けて

高岡先生には、透明性の高いガバナンス体制の構築や情報開示の充実など、当社グループの着実な取組みをご評価いただき、厚く御礼申し上げます。

当社グループは2019年度からの次期中期経営計画において、優先的に取り組む2つの重要事項を深掘りしながら、経営陣で将来の外部環境予測や経営戦略等を議論のうえ、中長期のESG目標を設定する予定です。かねてからご要望いただいております「CSR活動のPDCAの掲載」は、各目標設定の背景や目標達成に向けた諸施策遂行の報告の一環として、活動状況等を正しく理解していただけるものとなるよう検討してまいります。

今後も当社グループはCSR基本方針「ニチレイの約束」の実現を通じ、さまざまなステークホルダーの皆様との対話を続け、持続可能な社会の実現と当社グループの持続的成長の両方に資する経営を推進してまいります。



(株)ニチレイ  
取締役執行役員  
CSR本部副本部長  
**田口 巧**